

句点と閉じ括弧の考察

——「おはよう。」か、「おはよう」か——

A study of punctuation for Japanese writings, specially focusing on “。” (maru) and “」/)” (toji-kagikakko/toji-kakko) which is used at the end of a sentence like the “.” (period) and closing parenthesis/quotation mark in English.
“Good morning.” or “Good morning”

有限会社 アトリエ・ワン
Atelier Bow-Wow

貝島良太
Ryota KAIJIMA

小学校の時から、文の終わりにはマル(句点)を打ち、話し言葉はカギカッコで括弧することと習ってきた。この点に関する学校での教育は現在も変わっていないようだ。したがって、特に学校の作文などでは、例えば「〇〇さんがおはようと言った」と書くときは、『〇〇さんが「おはよう。」と言った。』のように記述しなくてはならない。しかし、新聞や雑誌など現在の多くの文書では、閉じ括弧直前の句点は省略され、『〇〇さんが「おはよう」と言った。』のような表記が普通である。一般文書では、いまや前者は明らかに少数派になっている。インターネットの質問の場にもこの問題は数多く寄せられている。マニュアル文を含む一般文書や画面表示など、いったいどちらにしたほうが良いのかを考察する。

1. はじめに

4年前のテーマであった「ください/下さい」の使い分けには、れっきとした日本語の文法規則があった。それが本動詞(=giveの意味を持つとき)として使われているときは漢字(例:パンを下さい)、補助動詞(=pleaseの意味を持つとき)のときは平仮名(例:どうぞお座りください)にするように使い分けをしなくてはならないことを述べた^[1]。

3年前は、6ヶ国会議、3ヵ所、5ヵ年計画などで使う助数詞の「ka」について考察した。これには、「ください/下さい」のような文法上の決まりはないが、新聞社や放送局など主要なメディアごとにどれを採用するかが制定されていること、そして、まだ規則を決めていな

いのであれば、「か」が最もよいこと(例:6ヵ国会議、3ヵ所、5ヵ年計画)をさまざまな事例を示し、理由を述べた^[2]。

昨年は、「見れる/見られる」「食べれる/食べられる」「起きれる/起きられる」などの動詞の可能を表すときの、いわゆる「ら抜き言葉」についての考察をし、簡便な判断法を述べた。その動詞が5段活用、つまりその動詞の終止形から最後の「る」を取ったとき、命令形として意味が通じるものなら「ら」は不要であること(例:「切れる」は「切れ」で命令形として成立するので「ら抜き」でOK)、いっぽう、5段活用以外の動詞(その動詞の終止形から「る」を取ったとき命令形にならないもの)では「ら」が必要(例:「着れる」は「着れ」が「着

る」の命令形ではない。「着る」の命令形は「着ろ/着よ」なので、「ら」を入れて「着られる」としなくてはならないであることを紹介した^[3]。「ら抜き言葉」は、「い抜き言葉(例:○食べている⇔×食べてる)/○知っている⇔×知ってる」、「さ入れ言葉(例:[謙譲]○歌わせていただく⇔×歌わさせていただきます)」などととも、崩れた日本語の代表であり、口語ならまだしもマニュアルや説明書、報告書など正式文書においては慎むべきである。

さて、今年のテーマとして取り上げるのは、句読法のうち、句点と閉じ括弧についてである。この場合の括弧は、会話を括るカギカッコ(「 」)と文章中に説明文を挿入するときなどに使う丸カッコ/パーレン(())のことである。前者は、会話文の記述で、例えば、「おはようございます」とするか、「おはようございます。」とするかの違いのことである。後者の例としては、よく契約書などで出てくる『○○株式会社(以降甲という)と△△株式会社(以降乙という)は……』とするか、『○○株式会社(以降甲という。)と△△株式会社(以降乙という。)は……』とするかのことである。

2. いろいろな解説(ネット編)

まずインターネットで、「括弧と句点」を検索してみたところ、実に沢山引っ掛かる(Google: 47,500件)。タイトルだけ見ても記述内容にかなり期待できそうなものが多い。上位にランクされているものうちいくつかのタイトルだけ列挙してみる。

- 文末の括弧と句点(1/2) | 国語の Q&A^[4]
- 句点「。」と読点「、」の決まりを知る - ITpro^[5]
- 日本語 Q&A「文の最後にカッコが来る場合、句点はどこに付ける...」-アルク^[6]
- 括弧と、句点の位置関係 - 楽天 みんなで解決! Q&A^[7]
- 括弧が文末にくる句点の打ち方についての質問です。 - Yahoo!知恵袋^[8]
- 括弧内の句読点について - BIGLOBE なんでも相談室^[9]

等々、枚挙にいとまがない。どれも回答者は相当な知識に裏づけされている感じである。

一つだけ、質問者が選んだベストアンサー

(http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1151783266)^[8]を全文紹介しておこう。

『ベストアンサーに選ばれた回答

nenufaro141 さん

小説には小説の文章作法というものがあり、これには小説形式の文章を書く上での基本的なルールが提示されています。

また、この小説の作法と呼ばれるものは、新聞社や出版社が定めた文章ルールに則っているとも言われており、出版業界では基本となるルールだといえます。そのうちの一つに、閉じ括弧の直前に句点を置いてはいけないというものがあり、多くの出版物ではこのルールに従って、閉じ括弧の前に句点を置くことを避けます(引用文の場合は例外です。この場合は、句読点を含め正確に引用する必要があるためです)。ただし、この文章作法と呼ばれるルールは、あくまで「これを守った方が、読者にとって読みやすい、大衆小説として(あるいは出版物として)適したものになりますよ」というもので、決して「必ずそれを守らなければならない」というものではありません。従って、文章技巧にこだわった純文学作品の中には、閉じ括弧の前に句点を置いている作家もいます。

これは、作家が読み手の受ける印象を計算した上で行なっていることと言えます。

また、厳密に言えば国文法上、いかなる場合においても文末には句点をつけるべきであるとされていますから、それを意識して句点を打っている人もいます。娯楽小説などでは、文章が煩雑になりやすいために、省いているだけなのです。

当然、正しい文法を身につけさせなくてはならない小学校などでは、句点を打つように習う場合が多いです(ただし、高校・大学までくると、今度は論文やレポートなど、出版物を意識した文章を書かされるようになりますから、閉じ括弧直前の句点は省くように言われる場合もあります)

従って、ある程度自由にしてしまっても問題はありませぬ。閉じ括弧のすぐ前に句点を打つやり方でも、意図的にそうしているのでしたらもちろん誰にも批判する権利はありません。ただし、この場合は、句点を省

いた方が読みやすい文章になるという基本的なことは、念頭に置いている方がいいと思います。』

3. 国の指針と解説(権威者編1)

インターネットにある記載は玉石混交である。やはり、ここは権威ある発行元(著者)の書籍で「括弧と句点」がどう扱われているかを見てみる必要がある。はじめに文部省の決めた基準を参照しておく。最初に参照するものは、昭和21年(1946年)3月に文部省教科書局国語調査室が発行した、くぎり符の使用法に関するものである。これは、文中にあるように明治39年に出された文部省大臣官房調査課草案に手を入れたもので、戦後の日本で最初の句読法についての文部省の見解である。原文は縦書きなので、本稿では横書きに打ち直した。よって、記載位置を示す「左/右」は「下/上」と読み替えていただきたい。旧仮名遣いについては原文のままとした。

『くぎり符号の使ひ方[句読法](案)

本省で編修または作成する各種の教科書・文書などの国語の表記方を統一し、その基準を示すために、

- 一、送りがなのつけ方(案)
- 二、くぎり符号の使ひ方[句読点](案)
- 三、くりかへし符号の使ひ方[をどり字法](案)
- 四、外国の地名・人名の書き方(案)

の四編を印刷に付した。この案はその一つである。諸官庁をはじめ一般社会の用字上の参考ともなれば幸いである。

(文部省教科書局調査課国語調査室)

まへがき

一、この案は、明治三十九年二月文部省大臣官房調査課草案の句読法(案)を骨子とし、これを拡充してあらたに現代口語文に適する大体の基準を定めたものである。

二、くぎり符号は、文脈をあきらかにして文の読解を正しくかつ容易ならしめようとするものである。

三、くぎり符号は、左のごとき約二十種の中から、その文の内容と文体とに応じて適当に用ひる。

(一) 主として縦書きに用ひるもの

- (1) マル(句点) 。
- (2) テン(読点) 、
- (3) ナカテン ・
- (4) ナカセン —— 又は—
- (5) テンテン …… 又は…
テンセン ……
- (6) カギ 「 」

フタヘカギ 『 』

(7) カッコ 〔 〕

ヨコカッコ ()

以下補助的なもの

(8) ツナギ =

ツナギテン —

(9) ワキテン あああ

(10) ワキセン ——

(11) 疑問符 ？

(12) 感嘆符 ！

(二) もっぱら横書きに用ひるもの

(1) ピリオド(トメテン) .

(2) コンマ ,

(3) コロン(カサネテン) :

(4) セミコロン(テンコンマ) ;

(5) 引用符(カコミ) 《 》 () “ ”

以下補助的なもの

(6) ハイフン(ツナギ) -

(7) 半ガッコ)

右、各種の符号の呼び名は、その一部は在来のもので一部は取扱上の便宜のためにあらたに定めたものである。

四、くぎり符号の適用は一種の修辞でもあるから、文の論理的なすぢみちを乱さない範囲内で自由に加減し、あるひはこの案を参考として更に他の符号を使ってもよい。

なほ、読者の年齢や知識の程度に応じて、その適用について手心を加へるべきである。

(一) 主として縦書きに用ひるもの

呼び名	符号	準則	用例
(1) マル	。	一、マルは文の終止にうつ。 正序(例 1)倒置(例 2)述語省略(例 3)など、その他、すべての文の終止にうつ。 二、「 」(カギ)の中でも文の終止にはうつ(例 4)。 三、引用語にはうたない(例 5)。 四、引用語の内容が文の形式をなしてあても簡単なものにはうたない(例 6)。 五、文の終止で、カッコ	(1)春が来た。 (2)出た、出た、月が。 (3)どうぞ、こちらへ。 (4)「どちらへ。」 「上野まで。」 (5)これが有名な「月光の曲」です。 (6)「気をつけ」の姿勢でジーンと注目する。 (7)このことは、すでに第三章で説明した

	をへだていうつことがある(例 7)。 六、附記的な一節を全部カッコでかこむ場合には、もちろんその中にマルが入る(例 8)。	(五七頁参照)。 (8)それには応永三年云々の識語がある。(この識語のことについては後に詳しく述べる。)
--	--	---

〔以降省略〕^[10]

上記発行の4年後(1950年)に、文部省は「くぎり符号の使い方」を、新仮名遣いで発行した。こちらも前述のものと同じ縦書きである。以下にそれを紹介する。

『文部省編『文部省刊行物 表記の基準』(昭和二五年九月)「付録」より

一 くぎり符号の使い方

くぎり符号は、文章の構造や語句の関係を明らかにするために用いる。

くぎり符号には、次の五種がある。

- 1 。 まる
- 2 、 てん
- 3 ・ なかてん
- 4 () かっこ
- 5 「 」『 』 かぎ

1 「。」は、一つの文を完全に言い切ったところに必ず用いる。

「」および()の中でも、文の終止には「。」を用いる。

「……すること・もの・者・とき・場合」などで終る項目の列記にも「。」を用いる。

ただし、次のような場合には「。」を用いない。

イ 題目・標語など、簡単な語句を掲げる場合。

ロ 事物の名称だけを列記する場合。

(例) 左の事項を書いた申請書を提出してください。

- 一 申請者の氏名・住所
- 二 建築の目的
- 三 建築する場所

ハ 言い切ったものを「」を用いずに「と」で受ける場合。

(例) すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有すると保障してあるが、現実には必ずしもこのとおりでない。

〔以降省略〕^[11]

以上2点の文部省の文書を掲載していたのは、「句読点、記号・符号活用辞典。」という小学館発行の符号と記号だけに関する辞典で、大変ユニークな観点から

編集したものだ。この本に、「括弧類と句点」というコラム^[12]がある。この文章も原文は縦書きである。やはり、参照部分の位置を意味する「左/右」に気を付けて読んでいただきたい。

『括弧類と句点

* 会話文末尾の句点

第二次大戦後の昭和二一(一九四六)年に文部省教科書局国語調査室が作成した文書「くぎり符号の使ひ方〔句読法〕(案)」に、「「」(カギ)の中でも文の終止にはうつ(例4)。」とあり、「どちらへ。」「上野まで。」という例を挙げている。昭和二五(一九五〇)年文部省編の小冊子『文部省刊行物表記の基準』の「付録」でも、「「」および()の中でも、文の終止には「。」を用いる。」としている。

学校の作文教育でも同様に、「」で括った会話文末尾の終止には「。」を打つものと指導している。「よくできたね。」と先生にほめられました。」のように、会話文を「と」で受ける場合も「。」を打つが、慣用句など単純な文を「」に引用するさいには打たないとする。国語教科書もその形でほぼ統一されている。

しかし、現在、新聞・雑誌・一般書籍で「」の会話分や引用文の末尾の終止に「。」が打たれることは多くない。大新聞の用字用語集では「」の直前の「。」は打たないとしているし、現代の純文学でも「。」を打つ著者は少数派である。

明治晩期から昭和初期にかけての出版物では、「」内の会話文末尾に「。」を打っているものが多くみられる。ただし、新聞小説を書き出してから夏目漱石のように「。」なしで通す著者もいた。著者によっては、次の例のように、会話文を「と」で受けるときは「。」を打たず、それ以外のときに「。」を打つと使い分けている場合もある。

「それ御覧！どうするつもり」

と、お鳥は泣き顔になった。

「どうもしない、もつと書くの、さ。」かう云って、義雄はおもてに元気を見せたが、〔…略…〕

-----岩野泡鳴「発展」(一九一二)

* ()と句点

文のあとに注記・補足などの()が置かれる場合、

「。」の扱いでは一般に次の三つの形がみられる。

- (1) ……(…)
- (2) ……。(…)
- (3) ……。(…)

右のほか、「……(……)。」という形も考えられるが、実際にはほとんどみない。

(1)は、直前の文で述べたことに関して、参考文献や参照先など簡単な語句を示す場合に多い。(2)も(1)と同様、簡単な語句を示す場合だが、直前の一文だけでなく、前述の事柄全体にかかわるときにこの形がとられる。(3)は、(この問題については後段でもう一度触れる。)のように、()内が文の形になっている場合の標準的な形である。

ただし、()内が文の形になっていても)の前には「。」を付けない習慣の著者は多い。(3)の形となるべき場合も(1)または(2)の形とすることが、一般の書籍ではしばしば行われている。(2)の形はあとに文が続く場合見た目の落ち着きが悪くなることから、段落の途中では(1)、段落の末尾では(2)と使い分けることもある。』

以上は括弧と句点に関する文部省の教科書などに関する表記の規定と、その解説であるが、各メディアの規則書では、どのように扱われているのか、次項に示す。

4. 規則書(権威者編2)

最初に引用するのは、新聞記事作成を細かく規定した用字用語集の代表格である「記者ハンドブック 第12版」^[13]のものである。文部省のものは、「参考にしていただければ幸いである」と懇懇無礼ではあるが、ともかく「案」であることと、強制力はないことを全面に出している。いっぽう、メディア各社の用字用語集は規則書で、各社の記者たちはこれに従って記事を執筆しなくてはならず強制力があるということが大きく違う。

『句読点

句点「。」

- 1 句点は文の終わりに付ける。
- 2 かっこでくくった文については次のようにする。
 - (1) 段落全体を構成する場合は付けない。

「—————」

[例] 「これ以上は話し合っても無駄だ」
突然の打ち切り宣言だった。

- (2) 段落の最後にあるときは付けない。
—————。「—————」

[例] ○○会長は頭を下げた。「責任を取りたい」

- (3) 直前に主語などの語句がある場合は、段落の最後にあるときでも、「と述べた」などの述語が省略されているので句点を付ける。
—————「—————」。

[例] 男性はひと言「知りませんでした」。
それきり口をつぐんだ。

3 文末の丸かっこについては次のようにする。

- (1) 部分的注釈の後は句点を付ける。
————— (—————)。

[例] 今月の消費者物価上昇率は0.5%(季節調整済み)。

- (2) 文章全体の注釈、筆名、クレジットなどは、かっこの前に句点を打つ。
—————。(—————)

[例] 手記の全文は次の通り。(原文のまま)

〔以降省略〕

次に、読売新聞の用字用語規則をみてみよう。「読売新聞用字用語の手引き 第3版」^[14]からの引用である。

『句読点と符号

1 句点「。」

- 句点は文の終わりに付ける。

[注] ダッシュ「——」やリーダー「……」で終るときも、原則としてその後に句点を付ける。

- カッコと句点

- a 段落がカッコで始まりカッコで終わるとき、閉じカッコの後に句点を付けない。

[例] 「最終目標はホワイトハウスだ」
知事に近い人はこう明かす。

- b 段落の途中からカッコで新しい文が始まり、閉じカッコで段落が終わるとき、その後に句点を付けない。

〔例〕彼は悔しさを隠そうとしなかった。「必ず雪辱してみせます」

- c その他の場合には、閉じカッコの後に句点を付ける。

〔例〕会心の復帰戦を振り返り、「とにかく楽しかったわ」。

- d 文末に注釈的な丸カッコを使った場合は、閉じカッコの後に句点を付ける。ただし、二つ以上の文章の総括的注釈の場合は、句点は丸カッコの前に付ける。

〔例1〕ベースアップは11月から実施する(要求は8月から実施)。

〔例2〕11月の貿易統計では、貿易黒字額は前年同期比12.2%減の7974億円で、4か月ぶりに前年同月を下回った。輸出額は同9.7%増の7兆2720億円。輸入額は同13.2%増の6兆4746億円。(財務省20日発表)

- 「?」「!」と句点

文末に「?」や「!」を用いた場合、これが句点と同格であるから句点を付けず、その後の1字分をあげる。

〔例1〕しまった! 俺の碁はそんな碁じゃないんだ。

〔例2〕キリンって、どんな動物? 聞かれて思い描くのは、まず長い首。

- 座談会、対談記事で場の様子などを()に入れる場合、段落の終わりではカッコの前に、文中のときは閉じカッコの後に句点を付ける。

〔例1〕私の施設では期限で退所させていません。(拍手)

〔例2〕本当の寝たきりに、相当「寝たふり」が交ざってます(笑)。もっといい車いすを使うべきですね。

- 末尾に句点を付けない場合

a 見出し、写真説明、表など短い文章

b 人事、地名・人名、物事の列挙

c 標語、短歌、俳句、川柳など

d 簡単な箇条書き

〔注〕追い込み箇条書きでは、各箇条の終わりに

句点を付けず、最後の箇条と本文を――でつなぐ。

〔例〕国、自治体が行うべき「公助」は、①人命救助②減災③避難誘導④緊急治療⑤緊急輸送――の五つだ。』

「記者ハンドブック」からの引用は、「句点」の項目の半ばまでの引用で留め、「読売新聞用字用語の手引き」については、当該項目の全文を引用した。両者とも例文の違いはあるが、ほとんど同一である。

最後に、TC 協会の「日本語スタイルガイド」^[15]を引用する。前述の2つの手引書の数分の一の文書量であるが、コンパクトにまとめられている。

『[2.8.1 句読点を適切に使用する

日本語では、句読点の使い方に絶対的なルールはないが、適切に使用することで、表記に統一感を持たせ、文章が読みやすくなる。

読点には点(、)とコンマ(,)が、句点には丸(。)とピリオド(.)がある。どちらを使うかを決め、統一する。技術文書や論文などではコンマとピリオドを使用することもあるが、ビジネス文書や一般消費者向けの文書では、点(、)と丸(。)を使う。

以下に、句点の一般的な使い方を示す。

表2.25

例	解説
これは新製品のプリンターです。 いったいどうしたものか……。 その新機能の両方――	文の終わりに句点を打つ。末尾がリーダーやダッシュで終わるときも、その後に打つ。
メーカーの担当者は「これは安全のための機能です」と述べている。	会話などを「」でくるときには、閉じ括弧の前後に句点は打たない。
強化点(従来の機能を強化したもの)について記述します。当選者(2等以下はその場でお渡しします。1等については後日お送りします)の方は、本部までお越してください。	括弧内には句点は打たない。ただし、括弧内に複数の文が含まれるときは、各文の間にだけ打つ。
受付後、3日以内にファクスで返却します(社内便を使うこともあります)。	文末に括弧が付く場合、句点は最後に打つ。

』

5. 教科書に従うか、慣習に従うか

まさに、ダブルスタンダードである。「文章の終わりに必ず句点を打つ」と単純明快な規則を学校教育で

教え、世の中に出たら、「読みやすさを理由に、句点を打たなくても閉じ括弧で文章が終わっていることが分かる場合は省略せよ」ということである。

教科書と子供用読み物を除けば、新聞、小説、週刊誌などの一般的文書のほとんどは、閉じ括弧直前の句点は打たれていない。実は、今回の研究で、子供用の学習雑誌や絵本の昔話などをみると、半分くらいは会話文の最後の句点を省略してカギ括弧で括弧しているのを発見(?)した。絵本などは、読み聞かせをする大人が読みやすいように慣習に従っているといえないことも無いが、字を覚えてたての子供が読むことを一義的に考えれば、恐るべし、子供のときから学校と社会のダブルスタンダードを身につけさせていることになる。

一部のマニュアルや契約書などで、教科書どおりのものに出会うと、なぜか違和感を覚える。意固地な感じもする。旧式な感じすらする。教科書はなぜ変更しないのか、できないのか、したくないのか不思議な気がする。多分、子供達に、例外だらけの規則を正面から教えるのは、相当難しいからだと推測する。少なくとも大人が読むものであれば、すなわち、想定している読者が社会人であれば、例外だらけでも慣習という一般規則に沿ったもののほうが、受け入れやすい。

以上のような訳で私の結論は、教科書には逆らうことになるが、読みやすさ第一に、閉じ括弧の直前の句点は省略する(打たない)、である。

6. 終わりに

表記の統一は、正に、「言うは易く、行なうは難し」である。今回のテーマの「閉じ括弧の直前の句点は省略する」は、文部省の方針という大きく立ちはだかる壁はあるが、「読みやすい/目に優しい」の観点から、すべての一般文書で統一的に採用されるべきと考える。少なくとも、一つの文書、同じ法人や個人が同時期に発行する文書には、「ください/下さい」の正しい使い分けや、助数詞「か」の統一使用に加えて、閉じ括弧直前の句点の省略が例外なくなされているかのチェックが必要である。これらがなされていないと、お粗末な文書の品質管理を露呈することになるのでご注意ください。

【参考文献】

- [1] 貝島良太、有限会社アトリエ・ワン、「下さい」と「ください」を正しく使い分けていますか？ —ほかにも「見る/みる」「言う/いう」「置く/おく」などは？—、TCシンポジウム'09論文集 2009、pp.1-5
- [2] 貝島良太、有限会社アトリエ・ワン、3か所？3ヶ所？ 助数詞の「ka」を正しく表記していますか？、TCシンポジウム'10論文集 2010、pp.1-5
- [3] 貝島良太、有限会社アトリエ・ワン、ら抜き言葉を考察する あなたは「食べれる」派？「食べられる」派？、TCシンポジウム'12論文集 2012、pp.17-21
- [4] 文末の括弧と句点(1/2)|国語の Q&A【OKWave】
<http://okwave.jp/qa/q1548068.htm>
- [5] 句点「。」と読点「、」の決まりを知る - ITpro
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20110527/360777/>
- [6] 日本語 Q&A「文の最後にカッコが来る場合、句点はどこに付ける...-アルク
http://home.alc.co.jp/db/owa/jpn_npa?sn=60
- [7] 括弧と、句点の位置関係 - 楽天 みんなで解決！ Q&A
<http://qanda.rakuten.ne.jp/qa7413058.html>
- [8] 括弧が文末にくる句点の打ち方についての質問です。 - Yahoo!知恵袋
http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1151783266
- [9] 括弧内の句読点について -BIGLOBE なんでも相談室
<http://soudan1.biglobe.ne.jp/qa2550797.html>
- [10] 小学館、小学館辞典編集部編「句読点、記号・符号活用辞典。」2007、付録ページ i-ii
- [11] 同上書籍、付録ページ xii
- [12] 同上書籍、pp.72
- [13] 共同通信社、「記者ハンドブック 新聞用字用語集 第12版」2010、pp.123-125
- [14] 中央公論社、「読売新聞の用字用語の手引き

第3版」 2011、pp.37-38

[15]テクニカルコミュニケーター協会 編著、「日本語
スタイルガイド」 2000、pp.76